

潮来町立女子技芸学校跡碑

潮来市潮来216（稲荷山公園内）

J R 鹿島線潮来駅から北西へ約1キロメートル、国道51号線沿いの小高い所に稲荷山公園があります。公園内の稲荷神社の近くに「潮来町立女子技芸学校跡」と刻まれた石碑が建っています。この場所は、現在の茨城県立潮来高等学校発祥の地にあたります。

潮来地域では小学校を卒業した女子に裁縫を中心とした中等教育を受けさせようと、地域の有力者たちが町内外から寄付金を集め、潮来町からの補助金で明治38年（1905）6月に稲荷神社の隣接地に「私立潮来裁縫学校」が設立されました。その後、潮来町議会は、この学校を町立学校へ移行するための決議をし、明治40年（1907）7月、文部大臣より「潮来町立女子技芸学校」として認可され、普通科目とともに裁縫などの実業科目を設け、教育が開始されました。

大正期になると、女子教育機関としての評価は高まり、入学者も増加しました。昭和9年（1934）になると、校名を町立でありながら「茨城県潮来女子技芸学校」とし、本科を3年制から4年制にしました。昭和13年（1938）には、稲荷山の校地が狭くなり、校舎も老朽化したため、潮来町出口の地（現在の茨城県潮来土木事務所のあたり）に新校舎を建設し、移転しました。戦時中の昭和17年（1942）になると、高等女学校に昇格して「潮来町立高等女学校」となりました。昭和20年（1945）2月には念願の県立移管が実現し、「茨城県立潮来高等女学校」と改称しました。

戦後の昭和23年（1948）4月には学制改革で男女共学の新制高校となり、校名も現在の茨城県立潮来高等学校となりました。昭和43年（1968）11月には江戸時代に水戸藩の延方郷校があった現在の地に移転し、今に至っています。稲荷山公園に建つ記念碑は、創立80周年を記念し、同窓会によって建てられました。



茨城教育 第八六七号

令和三年十月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和 一三五六一二

電話 〇二九一二二一―二七四七

印刷所 有限会社山田賢印刷所